

令和2年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

		課題番号	20352115
研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な確保のための国際市場に関する研究」		
委託研究課題名	北米地域における日系商社の穀物フードチェーンと日本の穀物実需産業に関する研究		
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）		
中核機関・研究総括者	東京農業大学 堀田 和彦		

1 研究の進捗状況等

初年度は研究項目ごとに文献・統計データの収集及び分析、基礎調査を行った。また、委託側と政策研側で情報共有を図る研究会を開催し、連携を深めた。新型コロナウイルスの感染拡大のなかで、アメリカ・カナダだけでなく日本国内での調査も困難となったが、その代替として文献資料および統計データの取り纏めに注力した。また、ZOOM等を利用してアメリカ穀物生産や日系商社の穀物事業に関するオンライン調査を実施した。

① 日本における穀物の実需産業の分析

穀物の実需先として配合飼料製造業については、産業内の競争構造と企業行動の歴史的推移、配合飼料市場の現状、産業を取り巻く環境等に関する資料収集と取り纏めを行った。また、養鶏等の畜産業については、全国的な飼養羽数・戸数の推移と規模別の経営概況や生産コスト等の統計データを整理するとともに、調査方法、経営モデルの検討や調査票の作成等を行った。

② 日本の穀物貿易フローと日系商社による穀物フードチェーンの分析

穀物貿易フローのデータや日系商社の穀物事業に関する文献資料を収集・整理した。また、ZOOMによる大手日系商社2社とJA全農にインタビュー調査を実施（研究項目③担当の九州大学と共同）し、各社の穀物事業を取り巻く環境と戦略をヒアリングした。なお、商社調査に先立ち、アイオワ州立大学普及部門職員に、北米の穀物生産・販売状況についてZOOMによるインタビュー調査を実施した。

③ アメリカの穀物産業構造及び関連政策に関する分析

[1]アメリカ穀物流通産業に関する近年の研究をレビューした。[2]アメリカ穀物関連業界から近年の業界再編記事を収集検討した。[3]アメリカ穀物エレベーター年鑑から全エレベーターリストの時系列データベースを作成した。[4]ZOOMを利用し、大手日系商社2社へのインタ

ビュー調査を実施(研究項目②担当の東京農業大学と共同)し、北米事業の展開状況について重要な知見を得た。

④ カナダの穀物産業構造及び関連政策に関する分析

カナダの穀物産業の最近の動向に関する資料及び統計を収集整理した。その際、穀物・油糧種子の作付、生産および価格の動向、平原州における集荷施設(エレベーター)のキャパシティや稼働状況、輸出港への運輸手段、輸出用保管施設の状況と国別の輸出力、それらを担うエレベーター会社や穀物商社の事業についてデータを収集分析し、次年度の調査に向けてこれらの基礎資料の整理を行った。